

関西医科大学と地域をつなぐ連携誌

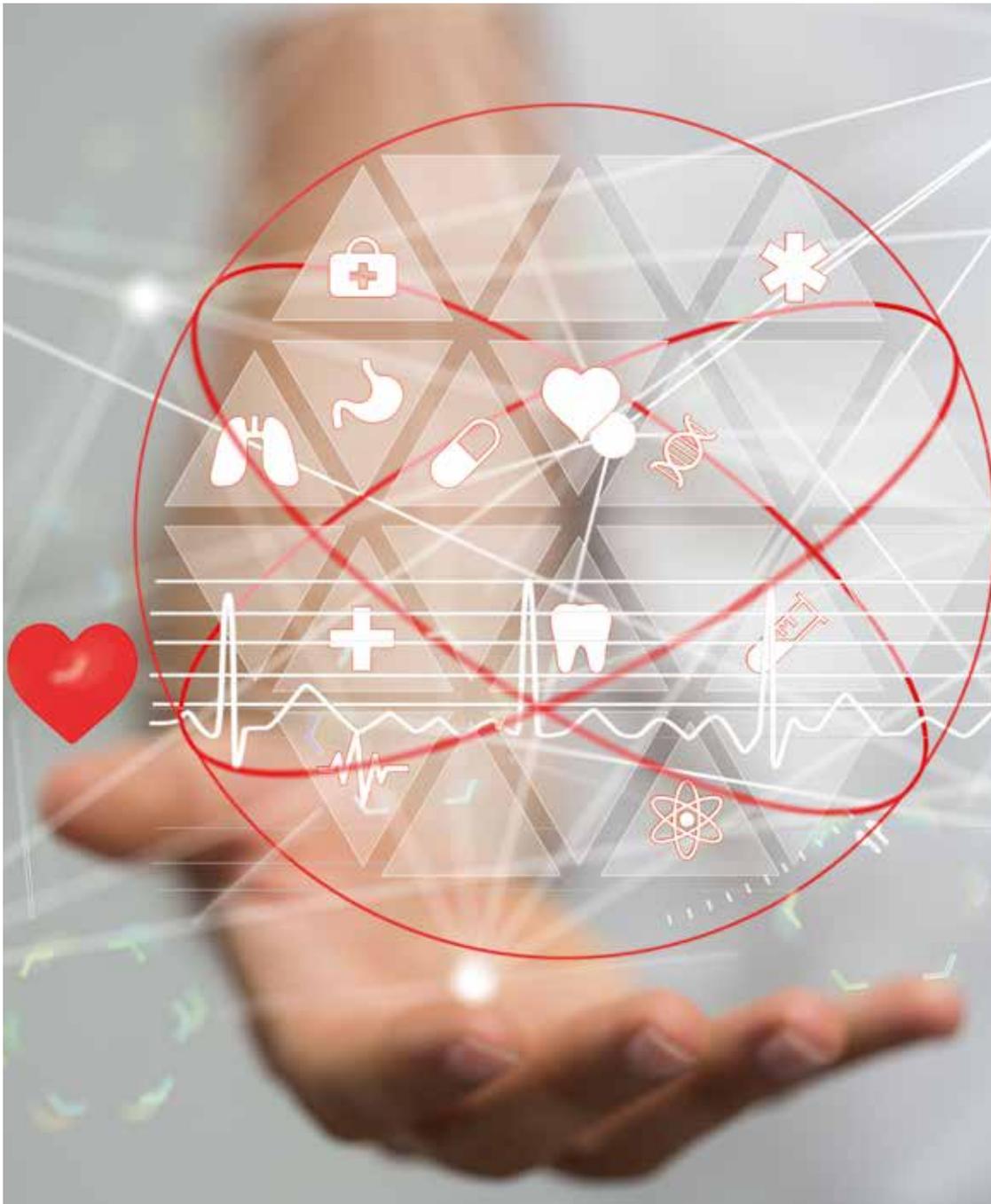
TSUNAGU Vol.10

2019 Spring

+believe

特集

いつでも頼れるホスピタル 関西医大のポテンシヤル



関西医科大学附属病院

- P.7 外来診療のご紹介 肝臓外科 運動療法外来 海堀教授
- P.8 消化管外科 肥満・糖尿病手術のご紹介 井上准教授
- P.9 取り組み紹介 健康科学センター 木村教授
- P.10 新教授に聞く 呼吸器・感染症内科 宮下教授

関西医科大学くずは病院

- P.17 整形外科 新任医師紹介 玉井外科部長・平田医師

関西医科大学総合医療センター

- P.11 手外科センター 浜田センター長
- P.12 転ばぬ先の杖外来 神経内科 近藤教授
- P.13 血管外科の取り組み 駒井教授

関西医科大学香里病院

- P.14 新医長に聞く 腎泌尿器外科 小糸助教
- P.15 新医長に聞く 乳腺外科 兼松診療講師
- P.16 スペシャリスト 臨床検査部 田中技師長

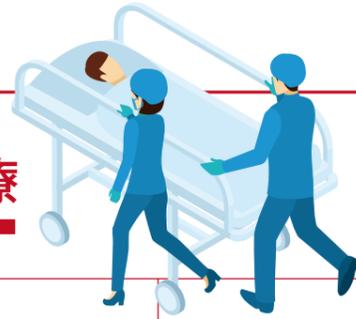
関西医科大学天満橋総合クリニック

- P.18 変革が迫られている総合健診 浦上院長



関西医科大学 地域医療センター

超急性期・急性期医療



ハートセンター・ 血管内治療センター

心臓血管疾患集中治療室(CCU)を保有し、循環器救急疾患を24時間体制で受け入れ、回復期の心臓リハビリテーションにも積極的に取り組んでいます。

血管内治療センターでは早期発見、早期治療介入により、将来重篤な血管病に陥らないようにするために、「統一血管病早期発見プログラム」を作成し、院内に広く普及させています。



脳卒中センター

脳卒中センター(附属病院・総合医療センター)では脳卒中(脳梗塞・脳出血・くも膜下出血)や一過性脳虚血発作などにも迅速に対応。脳神経外科・神経内科・救急医学科・リハビリテーション科が中心となり、コメディカルスタッフとともにチーム医療を展開し、患者さんに最善の治療が提供できるように努めています。また、発症早期からのリハビリテーションで、少しでも患者さんの症状が改善するように努めています。



救命救急センター

総合医療センターでは、Hybrid Emergency RoomにIVR-CTを設置し、重症患者さんに対しても、CT検査・血管造影検査を行い、的確な治療戦略が立てられるようになりました。さらに、生体モニター・電子熱型表が刷新され、救急初療室・救命救急センター・GICU・手術室・心臓カテーテル室が共通のシステムで結ばれています。



高度救命救急センター

他医療機関で対応困難な症例を幅広く受け入れています。附属病院は大阪府内で3つある高度救命救急センターのひとつとして、全診療科の地域からあらゆる重症症例を、24時間365日体制で収容・診療。また、附属病院は災害時の医療拠点、広域搬送拠点としての役割も担っています。



EXAMPLE

アナフィラキシー対応・啓発

患者さんに対するエピペンの処方や指導、学校教職員・保育士・救急救命士向け講習会などを積極的に展開。救急医学科とも連動し、重症例への緊急対応と、その予防にも取り組んでいます。



EXAMPLE

Hybrid手術室

附属病院は、血管造影装置などを併設した手術室、ハイブリッド手術室を保有。血管の状況を見ながら行う低侵襲で負担の少ないカテーテル手術の、安全性・確実性が向上しました。



EXAMPLE

Hybrid Emergency Room

ハイブリッドERは、救急患者さんの初療と別の患者さんのCT検査を同時に行え、医療リソースの有効活用を実現しています。



EXAMPLE

ドクターカー

枚方・寝屋川消防組合との連携で運用。1分1秒を争う超急性期症例では医師が現場に同行。搬送中に医療行為を施すことで救命率や予後の改善を実現しています。



その他にも

健康科学センター 総合リハビリテーションセンター

関医訪問看護ステーション 関医デイケアセンター

などで、急性期後の回復期・療養期医療にも取り組んでいます

心臓発作

脳梗塞

脳卒中

アナフィラキシーショック

くも膜下出血

その他にも

外傷センター 脊椎神経センター 褥瘡・創傷ケアセンター

などで、急性期医療に取り組んでいます

急性心不全

重度外傷

致命的不整脈

急性薬物中毒

大規模災害

重症熱傷

交通事故

関西医科大学グループの診療力

いつでも頼れるホスピタル 関西医大のポテンシャル

どんな症例も、あるいは見たことのない症例でさえ——
関西医大は先生方の「困った」に応えます。

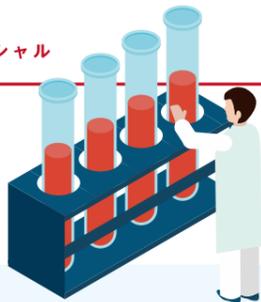
私たち関西医科大学は、京阪本線沿線に4つの附属病院と1つのクリニックを持ち、「健康沿線®」を旗印に北河内エリアの健康長寿を支えています。発行から10号を迎える今回の「つなぐ」では、緊急・高度・先進を軸に、巻頭特集として改めて私たちの診療力をご紹介します。

関西医科大学の「健康沿線®」

「健康沿線®」は関西医科大学の登録商標です。



先進医療



先進医療は保険診療との併用が認められているもので、先進医療にかかる部分の費用だけが自己負担となり、他の費用は保険診療が適用されるため、受診しやすくなっています。先進医療は厚生労働大臣が定めた施設基準に該当する医療機関のみ実施することができ、関西医科大学附属病院・総合医療センターも先進医療を実施しています。

多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術

診療科名 眼科
承認年月日 2013年8月1日
費用 308,809円/片眼(1回あたり)※

附属病院

総合医療センター

放射線照射前に大量メトトレキサート療法を行った後のテモゾロミド内服投与及び放射線治療の併用療法並びにテモゾロミド内服投与の維持療法

診療科名 脳神経外科
承認年月日 2016年7月1日
費用 113,540円※

附属病院

術前のS-1内服投与、シスプラチン静脈内投与及びトラスツズマブ静脈内投与の併用療法

診療科名 消化管外科
承認年月日 2016年10月1日
費用 23,129円※

附属病院

肺癌腹膜転移に対するS-1+パクリタキセル経静脈腹腔内投与併用療法

診療科名 胆膵外科
承認年月日 2017年4月1日
費用 819,174円※

附属病院

テモゾロミド用量強化療法

診療科名 脳神経外科
承認年月日 2017年5月1日
費用 123,840円※

附属病院

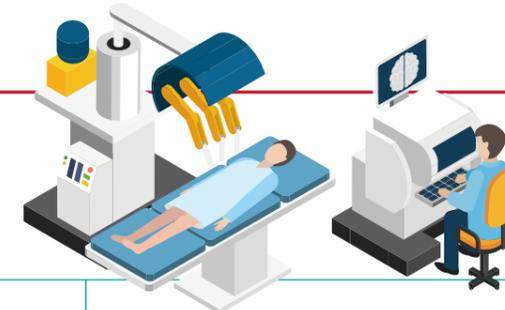
マルチプレックス遺伝子パネル検査 難治性固形がん

※ステージがIII期若しくはIV期で手術が不能なもの又は治療後に再発したものであって、治療法が存在しないもの又は従来の治療法が終了しているもの若しくは従来の治療法が終了予定のものに限り、肉腫を除く
診療科名 呼吸器腫瘍内科
承認年月日 2019年3月1日
費用 249,847円※

附属病院

※入院料などその他費用は別途かかります。

最先端医療



生殖医療センター

産婦人科医と泌尿器科医が連携し、ご夫婦を対象とした治療を大切にしています。希望を聞きながら、年齢・不妊原因を考慮して治療方針を決定。不妊症看護認定看護師が、患者さんに寄り添うサポートを心掛けています。また、体外受精胚移植、顕微授精など高度生殖補助医療(ART)の場合も専属の生殖補助医療胚培養士が責任をもって受精卵をお預かりいたします。

EXAMPLE

高度生殖補助医療(ART)

体内での受精が困難な患者さんの卵子や精子を体外に取り出し、体外で受精させる技術をART(生殖補助医療技術、Assisted Reproductive Technology)と言います。これは1)体外受精(IVF)、2)顕微授精法(ICSI)、3)胚移植(ET)、4)ヒト卵子・胚の凍結保存ならびに凍結胚移植等の技術の総称。



その他にも

総合周産期母子医療センター
小児医療センター 臨床遺伝センター

などで、無痛分娩や出生前診断、周産期・小児医療に取り組んでいます

不妊治療

出生前診断

無痛分娩

総合リハビリテーションセンター

附属病院・総合医療センターでは、3次元動作解析、床反力計、多チャンネル表面筋電図を用いた歩行・動作分析を実施しています。治療方針の決定や治療効果の判定が必要な際は、解析結果も画像データとともに地域の先生方と共有し、協働しています。最終的に患者さんが今まで生活されていた地域に戻られるために出来る限り地域の先生方や医療職の方と連携を進めています。

EXAMPLE

リハビリテーションロボット

脳卒中によって足関節に麻痺が残っている方のリハビリ治療として、空気圧人工筋による足関節ロボットを企業と共同開発し、歩行トレーニングを実施。ロボットを従来の下肢装具に装着し、足関節運動を適切にアシストすることで、動きを再認識させ、歩行機能を改善しています。その他にも、転倒予防や認知機能改善を目的とした、様々なロボット・先端技術の応用・活用に関する研究に取り組んでいます。



その他にも

人工関節センター
健康科学センター

などで、歩行・運動面における治療に取り組んでいます

重度肥満

リハビリ一般

回復期ケア

心臓病回復リハビリ

ロボット支援手術センター

ロボット支援手術センターでは、すでに導入されているダヴィンチによる手術を行うだけでなく、医師のスキルアップ支援から、新たに保険収載されたがんの症例における活用と安全性の確立まで、幅広く推進するとともに、新たなロボットの技術的評価や、導入検討、手技の模索、スタッフのスキル向上などにも取り組んでいます。

EXAMPLE

ダヴィンチ手術

手術支援ロボット「ダ・ヴィンチSi」を導入。人間には不可能な動きや回転、静止が可能なアームを自在に操り、開腹手術の困難な身体の奥深い病変部位も正確に、かつ安全に切除可能です。また、直径数センチの穴を3~4箇所切開するだけで、患者さんの負担が軽減。コンソールに座ったまま操作できるため、医療スタッフの負担も軽くする画期的なデバイスです。



その他にも

がん治療・緩和ケアセンター
腎センター

などで、がん治療に取り組んでいます

心臓発作

内視鏡手術

脳卒中回復リハビリ

がんセンター

化学療法ベッド数は35床と関西でも最大規模を誇り、診療室も同じセンター内に5室設置。医師が緊急時にもすぐに対応できる環境を整えています。また、ご本人のみならずご家族の治療への不安、将来への不安などにも相談できる環境を整えており、治療成績向上だけでなく安心を届ける援助を大事にしています。

EXAMPLE

IMRT(強度変調放射線治療)

がんの形にあわせた放射線治療を行う新しい照射方法です。がん細胞周囲の正常組織への照射を減らし、放射線をがんに集中することで副作用を増加させることなく、手術と同等の治療成績を上げることが可能です。治療は1回15~30分程度で、入院も不要。附属病院では前立腺がんだけでなく頭頸部がん、脳腫瘍、婦人科がん、膵がんなど全身のがんに応用しています。

また、前立腺がんと乳がんについて従来よりも短時間の治療が可能な方法も選択可能です。



KMU なら

関西医科大学グループは、
いつでも頼れるホスピタルとして地域の先生方とともに歩みます。



1 最先端・高度先進医療を、安全に安心の医療へ

どんな症例も、私たちにお任せください。豊富な経験と実績を誇る医師とコメディカルが、最適な診療をご提供します。



2 どんな領域、どんな分野でも、私たちが対応いたします

循環器系、臓器系、運動器、感覚器系、神経系、免疫系…すべての領域・分野においてプロフェッショナルをご用意しています。

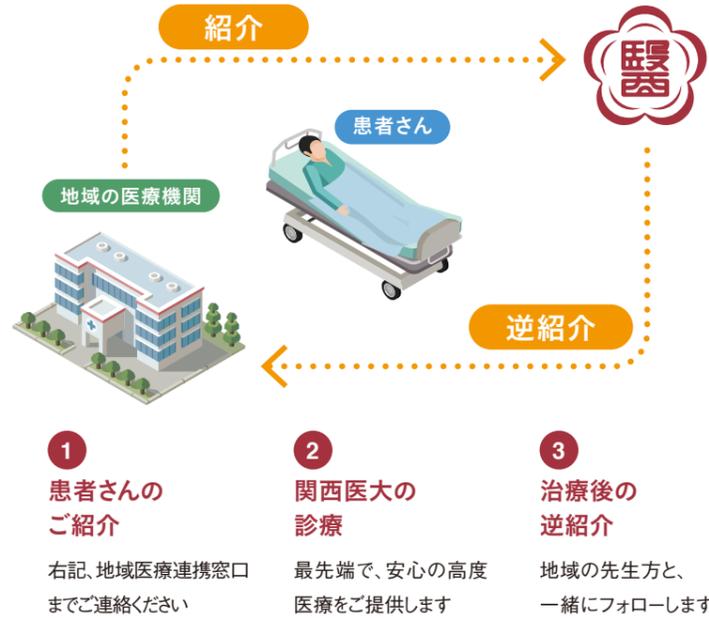


3 地域の先生方とともに歩み、ともに生きる関西医大

共存共栄のパートナーとして、関西医大は地域の先生方と手に手を取り合っこれからも診療活動に邁進していきます。



患者さんの紹介と逆紹介



関西医科大学グループ

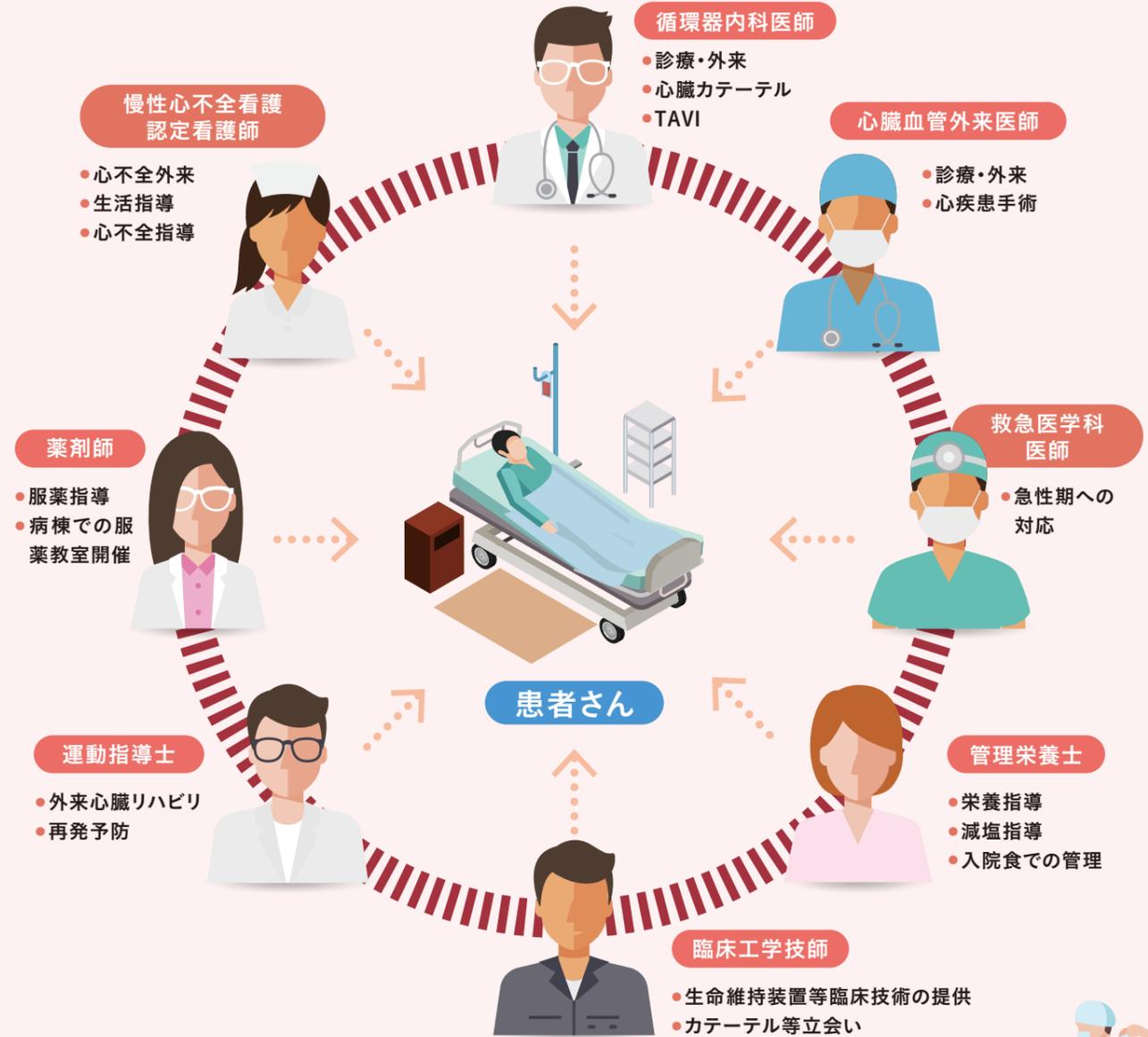
地域医療連携窓口

- 附属病院**
TEL 072-804-0101(代)
〒573-1191 大阪府枚方市新町2丁目3番1号
- 総合医療センター**
TEL 06-6992-1001(代)
〒570-8507 大阪府守口市文園町10番15号
- 香里病院**
TEL 072-832-5321(代)
〒572-8551 大阪府寝屋川市香里本通町8番45号
- くずは病院**
TEL 072-809-0005(代)
〒573-1121 大阪府枚方市楠葉花園町4番1号

チーム医療の充実

ハートセンターの取り組み

関西医科大学では患者さん一人ひとりの疾患に合わせた最適な医療を提供すべく、センター化によるチーム医療を推進しています。例えば12床の冠動脈疾患集中治療室を持つハートセンターでは上記のように医師・看護師以外に複数の職種が連携し、心疾患へのトータルケアを行っています。



地域の先生方とともに、チームとして診療しています

担当医だけでなく、患者さんを取り巻く医療職者全員が協力して診療に当たるチーム医療。しかし、そのチームには地域の先生方が欠かせません。超急性期・急性期を脱した患者さんが療養・回復していく過程において、地域の先生方の力が必要不可欠。本学はこれからも、附属医療機関と地域の先生方のチームワークを最大限高めるための努力を惜しみません。





Outpatient service

関西医科大学附属病院 消化管外科 肥満・糖尿病手術のご紹介

消化管外科



肥満・糖尿病の改善に期待高まる 外科アプローチの普及に尽力

当院では特殊外来として、専門性の高い疾患に対して専門の医師が診療を行っております。その1つに肥満外来があります。肥満とその合併症である糖尿病の治療や改善を試みる外科的アプローチの1つとして、私が専門とするのは「腹腔鏡下スリーブ状胃切除術」です。胃を細くすることで食べる量が減るだけでなく、胃から出るグレリン（食欲を増進させるホルモン）を取り除くこともできます。日本ではまだまだ薬物療法が主流ですが、海外ではいち早く手術による治療へとシフトしています。最初の症例はスウェーデンで、胃ではなく小腸の切除でしたが、術後の予後は良好で、術前より元気も出て腸の機能も回復したという報告があります。その後もいろいろな手術が行われてきましたが、現在もっとも多く行われているのが先述したスリーブ手術です。

BMI 35という基準や糖尿病や高血圧などのいずれかの症状がある患者さんに限定されま



消化管外科 准教授
井上 健太郎

Profile

略歴
 1993年 関西医科大学卒業
 2006年 関西医科大学附属病院助教
 2011年 関西医科大学附属病院講師
 2012年 関西医科大学附属病院准教授
 現在に至る

日本外科学会専門医・指導医
 日本消化器外科学会専門医・指導医
 日本内視鏡外科学会技術認定医

消化器外科 重度肥満・糖尿病症例は…

紹介
地域の医療機関から予約

初診
患者さんの状況を診断

外科的治療
腹腔鏡下スリーブ状胃切除術

内科的治療
インスリン療法など

逆紹介
地域の先生にお返しします

栄養指導・運動療法・カウンセリング
食事指導と運動プログラム、心理学的アプローチを組み合わせたケアを提供

関西医科大学附属病院 地域医療連携部病診連携課 ☎072-804-2742



肝臓外科 運動療法外来

診療科長 診療教授

海堀 昌樹

Profile

略歴
 1991年 関西医科大学 卒業
 1997年 関西医科大学大学院 医学研究科博士課程修了
 1993年 関西医科大学附属香里病院外科助手
 1997年 京都大学医学部移植外科国内留学
 1999年 関西医科大学附属香里病院麻酔科研究医員
 2006年 関西医科大学外科学第1外科助手
 2003年 関西医科大学外科助手
 2007年 関西医科大学外科助教
 2009年 関西医科大学外科講師
 2013年 関西医科大学外科准教授
 2015年 関西医科大学次世代低侵襲外科治療学講座(寄附講座) 併任教授
 関西医科大学臨床研究支援センター副センター長
 2015年 関西医科大学附属枚方病院がんセンター研究部門部門長
 2016年 千葉大学フロンティア工医学センター特別研究准教授
 2018年 関西医科大学外科診療教授

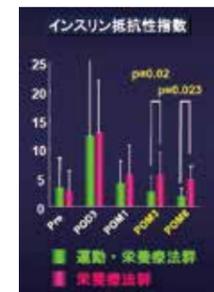
現職
 関西医科大学 外科学講座 診療教授
 関西医科大学 外科学講座 研究医長
 関西医科大学 次世代低侵襲外科治療学講座(寄附講座) 併任教授
 関西医科大学 臨床研究支援センター副センター長・研究計画管理部門長

Outpatient service

関西医科大学附属病院 外来診療のご紹介

肝臓外科

かつては肝臓の術後患者に運動療法を加える是非については一切考えられることがありませんでした。ところが、10年前より当院では肝臓患者に対しても健康運動指導士が個々にあった運動プログラムを提供。積極的に身体を動かすことによって術後の体力回復や体力維持を可能とさせる研究を行ってきた結果、予後に見受けられる良い兆しは数値の上でも明らかとなり、近年では障害肝合併症患者者に対する運動・栄養療法を組み合わせた包括的リハビリテーションが注目を集めています。再発リスクの指標となるインスリン抵抗性の値を例に見ると、定期的な運動をした場合と栄養療法のみの場合とで比較したところ、前者では正常値を示すことが多く、



インスリン抵抗性指数

再発率も下がりました。ほかにも「術後入院期間の短縮」「術後6ヶ月での体組成の有意な減少」「インスリン抵抗性指数の有意な低下」も得ることができ、運動療法の継続によって術後肝臓再発が減少する傾向を見出すことができたと言えるでしょう。今後、外科系横断的なチーム医療として周術期運動療法の導入を行い、関西医大オリジナルとしての「インスリン抵抗性よりみた癌再発抑制」に対する取り組みを実践してまいります。

肝臓外科 肝がんの疑い症例は…

紹介
地域の医療機関から予約

初診
患者さんの状況を診断

治療
手術、化学療法、放射線など

包括的リハビリ
栄養療法、運動療法を組み合わせた再発防止プログラム

逆紹介
地域の先生にお返しします

関西医科大学附属病院 地域医療連携部病診連携課 ☎072-804-2742



**運動療法×食事療法の有効性を実証し
肝臓患者の治療と体力改善に役立てて行く**



当科では、気管支喘息や慢性閉塞性肺疾患（COPD）などの換気異常をきたす疾患、肺炎や結核などの感染症、間質性肺炎などのびまん性肺疾患といった呼吸器（肺）に関する診療に力をいれています。呼吸器の病状として代表的な「咳や痰」はありふれた症状であるがゆえに悩まれている方も多く、医療機関を転々とされるケースも珍しくありません。咳は風邪と軽視されがちですが、背後には重篤な病気や感染症などが隠れていることもあります。赴任まもない印象としては、北河内には呼吸器専門医は少ないと感じています。治療や診断に窮する場合には、日本呼吸器学会に在籍し咳喘ガイドラインにも精通した当科医師が有する専門知識や、高度な設備を役立てていただければ幸いです。症状の緩和や改善へと導いた上で、患者さんの健康的な日常生活を支える地域医療へと引き継いでまいります。



大学附属病院の果たす役割は大きく3つ「教育」「研究」「臨床」です。「教育」とは学生にのみ当てはまることではありません。ガイドラインとなる標準的な治療を広め、地域と連携していく役割も担っています。こうした地域連携を深める上で欠かせないのが、地域の先生方とフェイス・トゥフェイスで交流する機会を増やし、互いの専門性を高め、共有しながら、信頼関係を築いていくことだと考えています。かつてのように受け身の姿勢では出会いも繋がりも生じないことから、積極的に機会や場を設けていきたい考えです。すべては地域の患者さんの健康への寄与と地域医療の発展を目指して、互いの知見やネットワークを役立てていきたいと願っております。



呼吸器・感染症内科 科長・診療教授

宮下 修行

Profile

- 略歴
- 1989年 川崎医科大学卒業
 - 1991年 川崎医科大学大学院 医学研究科(微生物学教室)入学
 - 1995年 川崎医科大学大学院 医学研究科博士課程修了
 - 1995年 川崎医科大学 呼吸器内科学教室臨床助手
 - 1997年 米国ワシントン大学 病原微生物学教室研究員
 - 1998年 川崎医科大学 呼吸器内科学教室講師
 - 2011年 川崎医科大学 総合内科学1学教室准教授
 - 2019年 関西医科大学 内科学第一講座 呼吸器・感染症内科担当診療教授

咳の専門医が有する知見を地域に還元 信頼と連携で確かな医療を提供していく



地域や コメディカルとの 連携強化を図り 患者さんを 全力でサポート



運動指導医による講演



症例検討会の様子



健康科学センター



健康科学センター
診療科長 教授

木村 穣

Profile

略歴

- 1981年 関西医科大学卒業
- 1988年 関西医科大学大学院医学博士取得
- 1988年 米国コネチカット大学留学
- 1989年 カナダトロント大学留学
- 1991年 大阪簡易保険総合健診センター内科医長
- 1997年 関西医科大学第2内科 講師
- 2002年 同助教授
- 2006年 同附属病院健康科学センター長
- 2009年 同健康科学科教授
- 現在に至る 循環器、肥満、抗加齢医学専門医、健康スポーツ医

健康科学センターでは、さまざまな病気の引き金となり得る生活習慣病はじめ、患者さん1人ひとりの背景と複雑にからみあつた症例に対応することが多く、幅広い専門性が求められています。そのため各種専門医のみならず、運動、栄養、心理職の専門スタッフや臨床検査技師を配備すると同時に、院内の各科の専門医や地域の先生とも情報連携を行いながら、治療と予防に携わっています。

地域の方々の連携の1つとして、先日行われた「**症例検討会**」が挙げられます。外科処置や服薬指導だけでは改善が難しいサルコペニアや肥満、大動脈解離といった症例を取り上げ、食事療法と運動療法 場合によっては臨床心理士によるカウンセリング、患者さんの生活に関わりのある地域

のフィットネストレーナーも加えてサポートを行い、健康へと導いた症例をご報告しました。

すでに道は開かれ、シフトしつつありますが、会を通じて改めて浮き彫りとなったことは、当院と地域のドクターが連携するのはもちろんのこと、患者さんの日常生活に関連のある専門多職種との連携が欠かせないということ。健康科学センターが要となり、必要な医療情報が分断されることなく共有されるよう、連携を深めていかなければなりません。医療の先進性を追求することも大切ですが、こうした症例検討会に加えてコメディカル対象の勉強会も継続していきながら、互いの意志疎通、情報共有、レベルアップを促していきたいと考えています。



神経内科 診療科長・教授
近藤 誉之

Profile

略歴

1987年 京都大学医学部卒業
 1990年 和歌山赤十字病院医師採用
 1997年 Neuroimmunology Branch, National Institutes of Health (ベセスダ、米国)において研究に従事
 1999年 国立精神神経センター神経研究所 免疫研究部組織培養室室長採用
 2005年 国立病院機構 長崎医療センター臨床研究部長
 2007年 長崎大学大学院医歯薬総合研究科 分子神経学講座教授(併任)
 2014年 京都大学医学部附属病院 地域ネットワーク医療部准教授
 2016年 関西医科大学総合医療センター神経内科診療科教授(現職)
 【学会評議員等役職】神経免疫学会評議員、日本神経学会代議員、日本認知症学会専門医試験作成委員、症例レポート審査員、独立行政法人医薬品医療機器総合機構専門委員

神経難病にかかると骨格系に異常をきたし歩行に悪影響が出て転倒しやすい傾向があります。本人も「歩きづらい」「つまづきやすくなった」と感じながらも「膝が悪いせいだ」「歳だから仕方ない」と、老化によるものだと諦めがち。そんな状況に危惧を感じた前院長が「転ばぬ先の杖」と命名した当科では、神経疾患のなかでもっとも罹患者の多い難病であるパーキンソン病の早期発見に繋がるさまざまな取り組み(スクリーニング)を行っています。アンケート実施もその一例ですが、回診中に気になる患者さんを見かけたら当

外来へのご案内もしています。かつては振戦麻痺と呼ばれたように、特徴的な症状である「震え」があれば患者さん本人もおかしいと気づき、来院されますが、中には震えないケースもあります。震えがなくても、歩行障害や動作緩慢、「変な夢を見る」「臭いが分からない」「便秘」などの症状を訴える患者さんがいたらパーキンソン病を疑い、当科への早期診断と治療を促してください。早期であれば劇的に生活能力が回復するのも、老化との違いです。



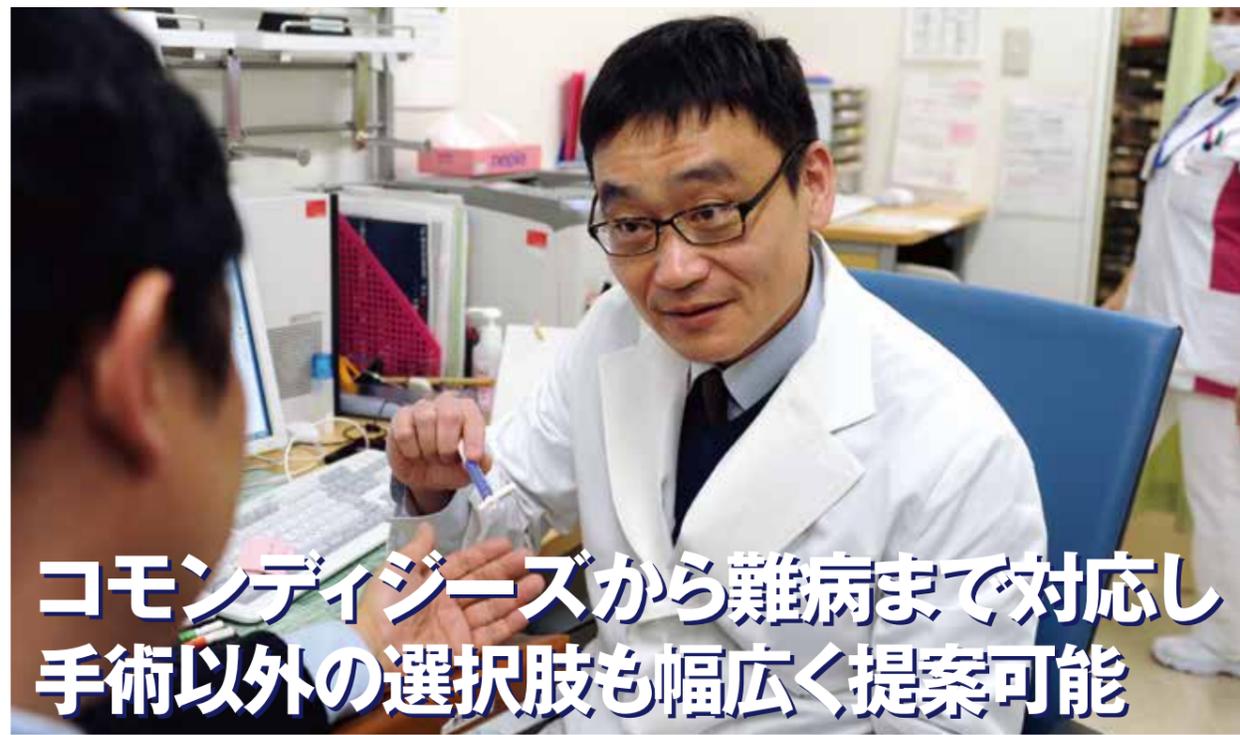
老化に似た症状の陰には、病が潜む可能性もあり 早期診断と治療で活動的な生活を取り戻す

転ばぬ先の杖外来

歩行障害などパーキンソン病疑い症例は…



関西医科大学総合医療センター 地域医療連携部 ☎06-6993-9444



コモンディージーズから難病まで対応し 手術以外の選択肢も幅広く提案可能

当センターは昨年の開設以来手足とくに上肢の疾患・障害の機能及び外観の回復・改善に特化した診療体制を整え、精度の高い治療を行ってきました。地域の患者さんに顕著な症状には手のしびれや痛み(手根管症候群)、腱鞘炎といったコモンディージーズから、手指変形性関節症、ガングリオン、微小骨折、テニス肘などが見受けられ、なかには特殊な治療を要するものもあります。一例を挙げるなら、手指の拘縮に対する創外固定治療(サージカルリハビリテーション)。保険適用になったりまだ新しいものですが私は10年ほど前から取り組んでおり、独自の矯正法も生み出すなど、この分野の第一人者であると自負しています。わずかでも関節が残っていれば手指を動かせるまでに改善可能です。本学には手の先天性異常や肘の障がい、指の人工関節分野においてワールドワイドに評価される先生が存在し、従来では不可能だった治療も可能で、そののが当センターの強みです。

難治性手指関節拘縮に対する指用創外固定器を用いたリハビリ治療



手外科センター センター長 **浜田 佳孝**

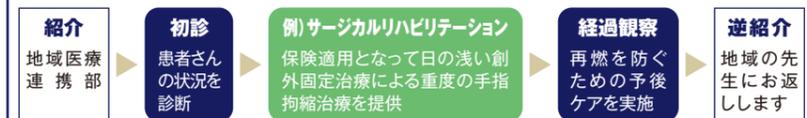
Profile

略歴

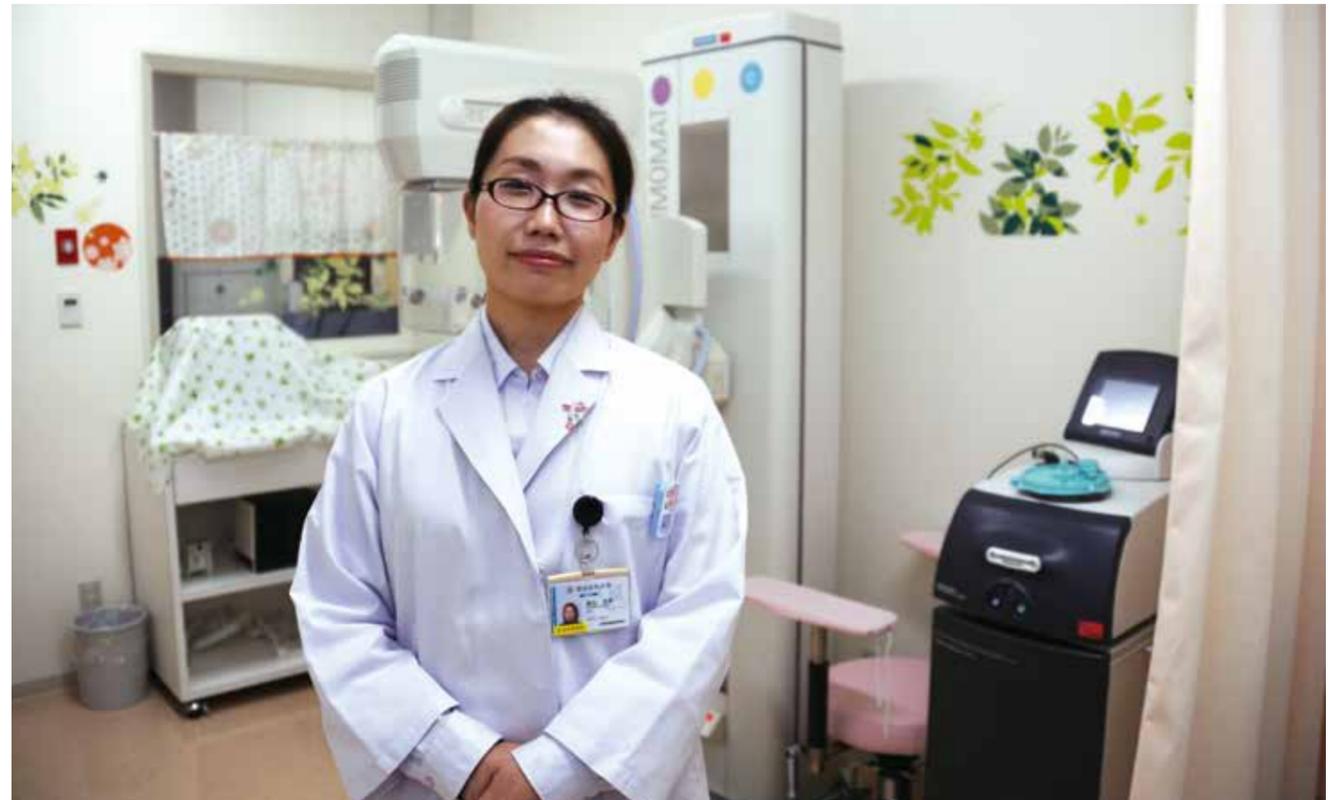
1993年 徳島大学医学部 卒業
 1996年 大学院医学研究科博士課程修了
 徳島県立中央病院、高知赤十字病院等にて勤務、新潟手の外科研究所 国内留学、上肢の外科(Postdoctoral fellow)
 イタリア フランス スペイン ドイツ 埼玉手外科研究所、長野新生病院、小郡中央病院にて研修
 2006年 鳴門病院整形外科・手外科センター長
 2013年 日本手外科学会・米国手外科学会トランニングフェロー 渡米

手外科センター

重度手指拘縮症例は…



関西医科大学総合医療センター 地域医療連携部 ☎06-6993-9444



手術から乳房再建まで対応し 患者さんの不安を最小限化

日本における女性の乳がんの発症率は12人に1人になります。生涯で2人に1人が何らかの悪性疾患に罹患する今日では、それほど多く感じないかもしれませんが、ただ、乳がんは罹患する年齢のピークが40代後半から60代であることは、注目すべき点です。子育て真っ只中であることも少なくないのです。しかし、90%以上の早期乳がんは治療で治癒します。早期発見、早期治療であればあるほど、治療による体への負担・治療費・治療期間が少なくなり、乳房の異常に気づいたら、早く受診して頂くようにお願います。働く女性も受診しやすい、夕診(17時から19時)を月曜日・水曜日・木曜日に行っております。また、早期発見の為に、症状が出現する前に乳がんを発見する：乳がん検診の受診をすすめることも大切です。当院は、寝屋川市の乳がん検診に毎年参加して



乳腺外科 医長・診療講師
兼松 清果

Profile

- 略歴**
- 2000年 関西医科大学卒業
 - 2002年 関西医科大学附属滝井病院 外科 入局
 - 2004年 大阪赤十字病院 出向
 - 2004年 関西医科大学附属滝井病院 外科 医員
 - 2006年 関西医科大学附属枚方病院 外科 専修医
 - 2007年 関西医科大学附属滝井病院 外科 専修医
 - 2007年 関西医科大学附属滝井病院 外科 研究医員
 - 2011年 関西医科大学大学院博士課程単位取得
 - 2011年 関西医科大学附属枚方病院 外科 病院助教
 - 2011年 関西医科大学香里病院 外科 助教
 - 2018年 関西医科大学香里病院 外科 助教・乳腺外科医長
 - 2018年 関西医科大学香里病院 外科 診療講師・乳腺外科医長

おりますが、今年から四條畷市の乳がん検診も受け入れることになりました。まさに、「京阪沿線は健康沿線®」となるように、当院で出来ることを地域の皆様に提供していきたいと思っております。

当院乳腺外科は、女性医師2名が中心になり治療を行っております。また、マンモグラフィや乳腺工コ어의検査は、女性技師が担当しており、女性が受診しやすい環境を整えております。4月から専門医が着任し、乳房再建にも力を入れていく考えです。

放射線治療のみ提携病院での施行となりますが、手術、化学療法などの乳がん治療は当院で可能です。香里園駅徒歩1分で、治療中の通院にも便利です。地域の皆様に寄り添う地域医療を心掛けておりますが、さらに不安なく安心して受診して頂けるよう努力を続けていきたいと思っております。

待ち時間の解消など 患者さん思いの検査体制

検査技師とは

その名の通り、検査を専門とする技能者のことで、国家資格を有します。診断を下し、治療を行うのは医師の役目ですが、その判断基準や根拠となる患者さんの状態を検査し、数値化(データ)して異変を示すのが臨床検査技師の仕事です。技師が提供するデータは病気の予防や早期発見にも欠かせないものであり、高齢化社会である今、健康診断や人間ドックなど、活躍の場は増えています。患者さんに最適な医療を提供する為に欠かせない現代のチーム医療にも貢献しています。

当院の特色について

附属病院のサテライトとしてスタートした香里病院は、大学附属病院の関連病院としての顔と地域密着病院としての顔を併せ持つ点が特色です。いろいろな症状を訴える患者さんにしっかりと対応していく為には、

小回りのきく検査が求められていると感じます。そのひとつが、臨床検査の夕診対応。夕診時でも検査が必要とされた場合、当日中に対応できる病院はあまり多くないと思います。確かに午前診に比べれば検査できる項目は減りますが、改めて予約を取る必要もなく、外来と連携して当日中に検査できるので、後日再来院を促すといった負担を患者さんに強いことが少ないです。通常かなり時間がかかるめまの検査についても、当院では当日中に対応しています。当院の特色のひとつである乳腺外来に対しても、乳腺工

コ어의充実を図っております。

強みを生かし地域連携

通常、地域の医療機関ではトレンドミルや下肢静脈検査をどこでも行える訳ではありませんが、当院では対応可能です。技師はあくまで、黒子ですが常にレベルアップを図り、待ち時間

を短縮するなど、患者さんの負担を解消し「診てもらってよかった」と思われる病院を目指し、一人一人の患者さんを大切にしていきたいと考えています。



臨床検査部
技師長
田中 敬一郎

Profile

- 略歴**
- 1991年 関西医科大学附属滝井病院 入職
 - 2010年 関西医科大学香里病院 勤務





天満橋総合クリニックは内視鏡検査体制を強化します。
従来、胃がん検診は上部消化

高年齢者に配慮した人間ドック健診のコースを新設します。
高齢化社会が急速に進展して



急速に進化する医療技術、なかでもプレジジョンメディスン、リキッドバイオプシーは従来のがん治療およびがん検診のあり方を大きく変革させる可能性があります。
がんの治療は、臨床試験を繰

急速に進化する医療技術を用いたがん検診の現場に導入します。

高年齢者に配慮した人間ドック健診のコースを新設します。

高年齢者向きの人間ドック健診のあり方を考える必要があります。年齢を考慮して、必要性が低いものを省き、健康寿命のさらなる延伸を目的として、新たに必要な検査を追加する必要があります。高年齢者に対する介護予防を推進する観点から、フレイルやサルコペニア、軽度認知障害(MCI)の評価が必要になります。人間ドック学会においても、高年齢者の人間ドックに関する新たな委員会を立ち上げ検討を開始されたようです。関連学会の動向を注視しながら、当クリニックでも新しい検査体制を立ち上げたいと考えています。

さらに検討されなければならぬ問題点もありますが、検診率の向上と早期発見のためには、非常に重要な検査法となり得ると確信しています。

リキッドバイオプシーは、その名の通り、液体(血液)による生検という意味で、従来のがんマーカーより正確に治療効果を判定することができるのみならず、がん検診への導入も検討されています。臨床試験の結果で大腸がんなどいくつかのがん検診での有用性が期待されています。さらに検討されなければならぬ問題点もありますが、検診率の向上と早期発見のためには、非常に重要な検査法となり得ると確信しています。

総合健診センター

変革が迫られている総合健診

今年11月1日に旧OMMメディカルセンター開院より50周年を迎えます。

社会構造の変化や医療技術の革新に直面し、総合健診センターも大きな変革を求められています。新しい医療技術を積極的に導入し、個別化された健診(テーラーメイドの健診)をさらに進化させる必要があります。

管透視検査と内視鏡検査で行ってきましたが、近年内視鏡検査の希望者が急増しています。経鼻内視鏡検査の普及で、内視鏡検査に対する抵抗感が軽減してきたことが一因と思われます。また、胃がんとヒロリ菌感染のあいだに明らかなる因果関係が認められてから、胃がんリスク層別化検査(ABC分類)などによるヒロリ菌検査が普及し、その結果ヒロリ菌陽性者に対する除菌治療が増加し、除菌前後の内視鏡検査の需要が増した事も大きな原因と思われます。今後その傾向は続くものと考えています。クリニックでは、増加する内視鏡検査に対応するために、内視鏡検査室を増設しました。内視鏡検査医も増員し、検査体制を強化します。

院長 浦上昌也

くずは病院 整形外科 新任医師紹介

整形外科部長
玉井 辰弥 Profile
略歴
2008年 関西医科大学卒業
2010年 市立岸和田市民病院
関西医科大学香里病院
関西医科大学附属滝井病院
2011年 洛西ニュータウン病院
2013年 関西医科大学香里病院
2018年 関西医科大学くずは病院 整形外科
関西医科大学くずは病院 整形外科部長就任



地域と繋がる機会を増やし
連携を深めていきたい
玉井医師

急な手術も対応可能
まずはご相談ください!
平田医師



整形外科
平田 将之 Profile
略歴
2012年 関西医科大学卒業
2014年 関西医科大学整形外科学教室
2015年 独立行政法人
地域医療機能推進機構滋賀病院
2017年 関西医科大学香里病院
2018年 関西医科大学くずは病院 整形外科

関西医科大学附属病院の整形外科では主に股関節疾患を専門に診療していましたが、2018年4月より、玉井先生と共に新たなスタートを切った関西医科大学くずは病院の整形外科を盛り立てていく任を受けています。柏友会楠葉病院時代にはなかった手術から、術後のリハビリまでを当院でトータルに請け負ったあと、地域の主治医と連携しながら、その後の生活に不安や支障のないように回復を促し、患者さんのケアとサポートを行なっていきたいと考えています。現在2人の専門医が在籍していますので、急を要する疾患にもフレキシブルに対応可能です。一般的な外傷骨折はもちろん圧迫骨折や保存的加療での入院が必要な患者さんについてもぜひ当院へご相談ください。

整形外科



■ 関西医科大学附属病院

TEL.072-804-0101 (代)

<http://www.kmu.ac.jp/hirakata/>

〒573-1191 大阪府枚方市新町2-3-1

地域医療連携部 病診連携課(地域医療センター事務局)

TEL.072-804-2742 FAX.072-804-2861

■ 関西医科大学総合医療センター

TEL.06-6992-1001 (代)

<http://www.kmu.ac.jp/takii/>

〒570-8507 大阪府守口市文園町10-15

地域医療連携部 病診連携課

TEL.06-6993-9444 FAX.06-6993-9488

■ 関西医科大学香里病院

TEL.072-832-5321 (代)

<http://www.kmu.ac.jp/kori/>

〒572-8551 大阪府寝屋川市香里本通町8-45

地域医療連携部 病診連携係

TEL.072-832-9977 FAX.072-832-9988

■ 関西医科大学くずは病院

TEL.072-809-0005 (代)

<http://www.kuzuhahp.com>

〒573-1121 大阪府枚方市楠葉花園町4-1

地域医療連携課

TEL.072-809-0013 FAX.072-809-0022

■ 関西医科大学天満橋総合クリニック

TEL.06-6943-2260 (代)

<http://www.kmu.ac.jp/temmabashi/>

〒540-0008 大阪市中央区大手前1-7-31 (OMMビル 3階)

TEL.06-6943-2260 FAX.06-6943-9827

